

10 日課表

事項	学部	時刻
職員朝会		8:30 ~ 8:40
児童生徒迎え		8:40 ~ 8:45
朝の学活	小・中・高	8:45 ~ 8:55
第1校時	小	9:00 ~ 9:45
	中・高	9:00 ~ 9:50
第2校時	小	9:55 ~ 10:40
	中・高	9:55 ~ 10:45
第3校時	小	10:50 ~ 11:35
	中・高	10:50 ~ 11:40
第4校時	小	11:45 ~ 12:30
	中・高	11:45 ~ 12:35
給食指導	小・中・高	12:35 ~ 13:20
自立・日生(帯状時間)		13:20 ~ 13:30
第5校時	小	13:30 ~ 14:15
	中・高	13:30 ~ 14:20
第6校時	小	14:25 ~ 15:10
	中・高	14:25 ~ 15:15
学活・清掃・移動	小・中・高	15:15 ~ 15:30
バス送り		15:30

11 スクールバス

本校は通学の便宜を図るため、那覇コースと中部コースの2台のスクールバスを運行しています。



写真 - 登校の様子

12 寄宿舎

(1) 基本目標

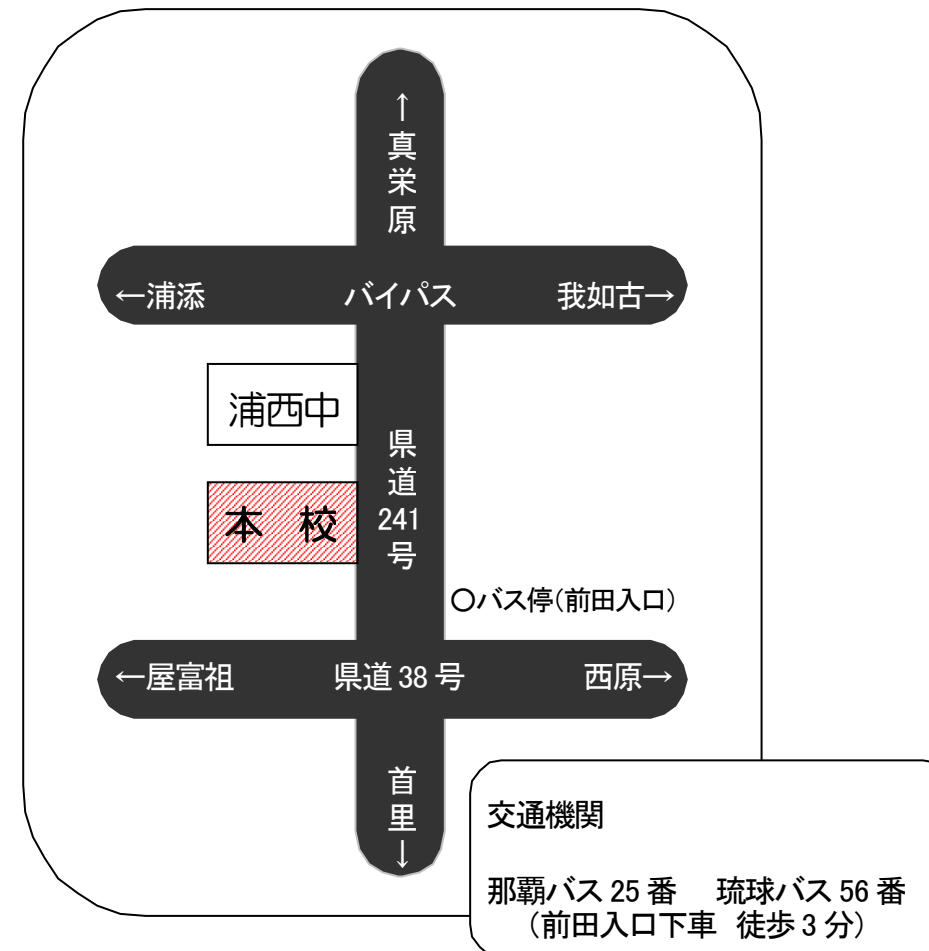
集団生活を通して、人間相互の関係について正しい理解をさせ、自主共同・友愛忍耐力を養い、情緒を豊かにするとともに生活指導に重点をおき、常に自己の障害を克服し、たくましく生きていく児童・生徒の育成を図る。

(2) 在舎児童生徒数 (H27.5.1 現在)

学部	小学部	中学部	高等部	合計
男子	0	0	11	11
女子	0	2	6	8
合計	0	2	17	19

寄宿舎指導員 (17) 人

13 学校案内図



沖縄県立 鏡が丘特別支援学校

〒 901-2104

沖縄県浦添市当山三丁目2番7号

TEL(098)877-4940

寄宿舎(098)877-6830

FAX(098)877-9958

E-mail school@kagamigaoka-sh.open.ed.jp

平成27年度 学校案内



1 学校の概要

本校は昭和40年4月に沖縄県で最初の肢体不自由養護学校として浦添村宇大平鏡原に開校した。その間に学校規模が拡大し、校地等も狭くなり昭和57年11月1日に現在の地に移転し、創立50周年となる。

本校には小学部・中学部・高等部の3学部が置かれ、寄宿舎も併設されている。在籍している児童生徒個々のニーズに応じた幅広い教育課程を編成し、それぞれの自立と社会参加を目指した教育を行っている。また、学習環境整備にも力を入れ校内緑化に取り組んでいる。校地面積の三分の一が擁壁のある傾斜地であるが、学校職員、保護者で協力し整備を進めている。

平成8年度「花と緑と野鳥の住む学園コンクール」で優秀賞、平成10年度沖縄県緑化コンクール準特選を受賞する。

平成13、14年度に文部科学省指定「特殊教育における福祉・医療との連携に関する実践研究」、平成21、22年度に県教育委員会研究指定「特別支援教育（児童生徒の確かな支援が可能となる指導体制の構築）」のテーマで、それぞれ実践研究報告を行った。

平成27年5月1日現在の児童生徒数は146名、職員在籍数は179名（代替補充、分教室教員除く）で、「自立・社会参加」を目指した教育を行っている。

2 本校の教育目標

肢体等に障害のある児童生徒の障害の状態と心身の発達段階に応じて教育を施し、障害による学習上又は生活上の困難を積極的に克服しようとする意欲を育て、個性豊かで明るく、たくましく、ねばり強く生きようとする人間を育成する。

3 教育目標を達成するための基本方針及び目標

基本方針

- ① 本校の教育目標を達成のため、小・中・高の一貫した教育の実践に努め「生きる力」を育む教育の充実を図る。
- ② 本校の教育目標を踏まえて学部目標を設定し、学年・学級経営の充実に努める。
- ③ 障害の重度・重複化や多様化を考慮して児童生徒の実態に合った教育課程を編成し、指導の充実を図る。
- ④ 環境の整備・充実を図り、安全で楽しい学習環境づくりに努める。
- ⑤ 小・中・高の連携を図り、一貫したキャリア教育体制の確立に努める。
- ⑥ 保護者との連携を重視し、教育活動実施の充実を図る。
- ⑦ 近隣校・居住地校及び地域社会との交流教育及び共同学習の充実に努める。
- ⑧ 特別支援教育推進のため専門性の向上を図るとともに、医療、福祉、労働関係機関及び、地域等との連携づくりに努める。

本年度の重点目標

- (1) 児童生徒一人一人の障害の状態、発達段階及び特性等に応じて教育課程を編成し、教育活動の充実に努める。
 - ① 自立活動の指導の充実に努める。
 - ② 各教科等を合わせた指導の充実に取り組む。
 - ③ 日常生活を豊かにする基本的生活習慣の形成を図る。
 - ④ 各教科・領域の指導の充実に努め、基礎的・基本的内容の定着を図る。
 - ⑤ 学習指導の充実を図るため、教材教具の整備並びに自作教材の工夫改善に努める。
- (2) 情報教育の推進と充実に努める。
 - ① 情報活用能力を育てるための情報教育を推進する。

- ② コンピューター室及び機器の有効活用を図る。
- (3) 学校環境の整備・充実を推進する。
 - ① 快適な学校環境づくりに学校全体で取り組む。
 - ② 児童生徒の安全管理を一層推進する観点から、施設、設備等の充実に努める。
 - ③ 非常災害時等に備え、学校備蓄品を含めた設備等の充実に努める。
- (4) 自立し社会参加を目指し、可能な限り社会自立を図るキャリア教育の充実に努める。
 - ① 社会自立を目指し、小・中・高等部一貫した教育内容と指導の充実に努める。
 - ② 就労移行支援事業所及び生活介護事業所、地域の医療・福祉関係機関との連携を密にする。
- (5) 交流及び共同学習の推進に努める。
 - ① 近隣校等との交流教育及び共同学習を推進し、理解・啓発に取り組む。
 - ② 居住地校交流の推進に努める。
- (6) 特別支援教育のセンター的機能の充実のためコーディネーターを中心とした教職員の専門性の向上を図る。
- (7) 開かれた学校づくりに向け、保護者、地域及び関係機関との一層の連携を図る。
- (8) 医療的ケア充実のため、医療、福祉、地域等との一層の連携を図る。
 - ① 医ケアコーディネーターの校務分掌への配置と業務内容の構築
 - ② 教育における医ケア目標の位置づけを明確化
- (9) ICF理念をもとに「生きる力」の育成をめざし、児童生徒が主体的に活動する授業の工夫・改善を核にした取組みを行う。

4 本校の特色

教育内容は、基本的には小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を行うとともに、障害による学習上又は生活上の困難を改善、克服するための領域としての自立活動（運動機能の向上に関する指導、意思の伝達能力を向上させる指導等）がある。また、児童生徒の障害の重度・重複化に伴い各教科等を合わせた指導形態（日常生活指導、生活単元学習、作業学習等）や、自立活動を主とした指導も行っている。平成22年度より、新たに病弱児教育部門が加わり、肢体不自由児教育との2つの部門の教育を主体として教育課程を編成している。その他に児童生徒の障害への理解・啓発と自己理解のために、公立小学校、中学校及び県立高等学校との交流教育及び共同学習を行っている。この機会を通して本校の子どもたちは集団社会における同世代の子どもたちとのコミュニケーションを図っている。また、日頃から安心・安全な学習環境を全職員体制で心がけているが、現在、複数の看護師を配置し医療的ケアを必要とする児童生徒の学習環境の充実を図っている。

県内の肢体不自由を対象にした特別支援学校では、寄宿舎を設置しているのは本校のみで、寄宿舎には、現在、小学部、中学部、高等部の児童生徒が入舎し、充実した舎生活を送っている。自宅から通学する児童生徒は、2台のスクールバスを利用するか保護者の自家用車で通学している。

5 各学部の教育目標

- (1) 小学部
 - ① 元気で明るい子（健康な体と豊かな心を育てる）
 - ② 仲よくする子（集団生活に進んで参加しようとする意欲を育てる）
 - ③ がんばる子（最後まで頑張る態度を育てる）

- (2) 中学部
 - ① 基本的生活習慣を身につけ、自立をめざす生徒を育てる。
 - ② 障害を理解し、明るく、積極的に行動する生徒を育てる。
 - ③ ねばり強く、最後までやりぬく生徒を育てる。
 - ④ 豊かな感受性を培い、友だちを大切にする生徒を育てる。
 - ⑤ 他校や地域との交流を深め、集団生活に参加できる生徒を育てる。

- (3) 高等部
 - ① 自己の能力・適性等を把握し、その伸長をはかり、適切な進路を選択できる生徒を育てる。
 - ② 自己の目標を持ち、規則正しい生活習慣・態度を備えた生徒を育てる。
 - ③ 心身を鍛え、目標に向かって努力する生徒を育てる。
 - ④ 感情豊かに、日常生活を楽しく過ごせる生徒を育てる。
 - ⑤ よりよい人間関係を確立し、積極的に自立し、社会参加することができる生徒を育てる。

6 児童生徒数（H27.5.1現在）

	小学部	中学部	高等部	計
男	40	19	28	87
女	30	11	18	59
合計	70	30	46	146

7 教職員数（H27.5.1現在） ※代替補充除く

校長	1	栄養職員	1	介助員	3
教頭	2	寄宿舎指導員	17	用務員	2
事務長	1	事務職員	5	調理員	7
教諭	118	実習助手	2	嘱託看護師	6
養護教諭	2	運転士	0	非常勤講師	1

8 主な疾病・障がい

脳性麻痺	てんかん
染色体異常	二分脊髄
低酸素性虚血脳症	慢性肺疾患
水頭症	脊髄小脳変性症
股関節脱臼	骨形成不全
筋ジストロフィー症	心疾患

9 高等部卒業生の進路状況（過去3カ年）

年度	就職	進学	就労移行 継続支援事業所等	地域活動 支援センター	生活介護 事業所等	在宅 その他
24	1	0	5	1	6	2
25	1	0	5	0	7	0
26	0	0	3	0	1	1